

通し番号	4738
------	------

分類番号	26-18-14-02
------	-------------

チャ冬期樹冠成葉（古葉）と一番茶新芽における放射性セシウム濃度の間には相関がみられる	
[要約] 冬期のチャ樹冠上部の成葉（古葉）と一番茶新芽の放射性セシウム濃度には正の相関関係がみられる。	
神奈川県農業技術センター北相地区事務所・研究課	連絡先 042-685-0203

[背景・ねらい] 一番茶新芽の放射性セシウムを早期に把握することを目的として、県内各地点において冬期古葉と一番茶新芽を同じ地点から採取し、一番茶新芽の放射性セシウム濃度を予測する。

[成果の内容・特徴]

- 1 平成24年の冬期古葉(X)と一番茶新芽(Y)の ^{137}Cs 濃度に関する回帰式は次のとおり
 $Y=0.4200X+4.3451$ 決定係数0.7088
- 2 平成25年の冬期古葉(X)と一番茶新芽(Y)の ^{137}Cs 濃度に関する回帰式は次のとおり
 $Y=0.6191X+2.623$ 決定係数0.6698
- 3 平成26年の冬期古葉(X)と一番茶新芽(Y)の ^{137}Cs 濃度に関する回帰式は次のとおり
 $Y=0.2692X+4.2172$ 決定係数0.8347
 ^{137}Cs 濃度は、いずれも(Bq/kg・新鮮重)である。
- 4 平成24年以降は冬期古葉、一番茶新芽ともに ^{137}Cs 濃度は年々減少している。

[成果の活用面・留意点]

- 1 新芽の生育ステージは考慮していない。
- 2 採取場所及び採取地点数は年次により異なる。
- 3 回帰式は年次により異なるため、予測については今後の課題である。

[具体的データ]

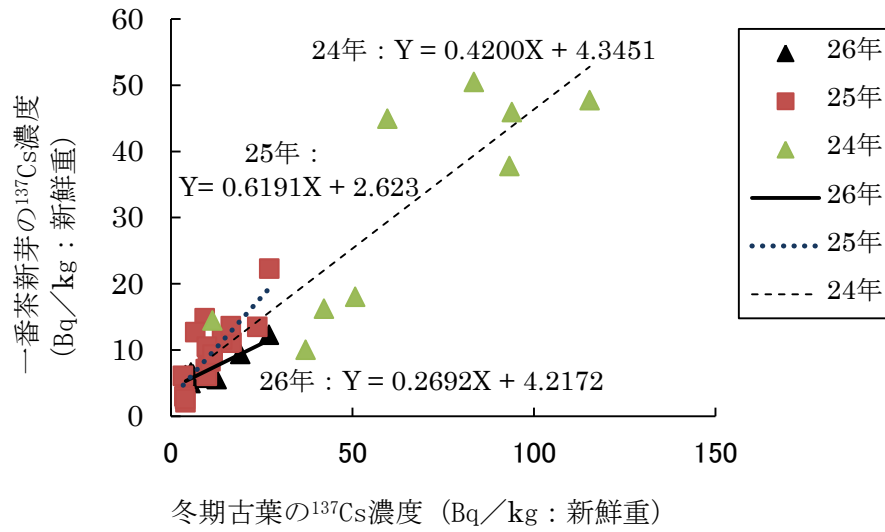


図1 冬期古葉と一番茶新芽の¹³⁷Cs濃度の関係

- [資料名] 平成26年度試験研究成績書(北相)
- [研究課題名] 茶園における放射性セシウムの動態解明と対策技術の開発
- [研究期間] 平成23~26年度
- [研究者担当名] 黒澤晃、白木与志也、武田甲、渡辺茂、岡本保、北浦健生
- [協力・分担関係] (独)野菜茶業研究所他 (農林水産省委託プロジェクト)